

- 問1 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。 (2016年 鳥取公立入試 類似)
1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で美学的である
 2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である
 3. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている
 4. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている
- 問2 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された
 2. ナウマンゾウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた
 3. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた
 4. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた
- 問3 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐり争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄公立入試 類似)
1. 高床倉庫
 2. 環濠集落
 3. 石舞台古墳
 4. 三内丸山遺跡
- 問4 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
1. 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。
 2. 気候の寒冷化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。
 3. 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。
 4. 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。
- 問5 縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。 (2016年 鳥取公立入試 類似)
1. 弥生土器
 2. 須恵器
 3. 土師器
 4. 黒色土器
- 問6 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 北海道公立入試 類似)
1. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された
 2. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した
 3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった
 4. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった
- 問7 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野公立入試 類似)
1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡
 2. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印
 3. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀
 4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符
- 問8 弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 大阪公立入試 類似)
1. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。
 2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。
 3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。
 4. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。
- 問9 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。 (2026年 滋賀公立入試 類似)
1. 青銅器
 2. 鉄器
 3. 埴輪
 4. 磨製石器
- 問10 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2017年 岡山公立入試 類似)
1. 石包丁と高床倉庫
 2. 銅剣・銅矛と高床倉庫
 3. 石包丁と竪穴住居
 4. 和同開珎と高床倉庫
- 問11 中国の歴史書『魏志倭人伝』の中で、邪馬台国の女王が即位した経緯や背景について説明した一節があります。その内容として最も適切な説明を次から選びなさい。 (2026年 岐阜公立入試 類似)
1. もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。
 2. 仏教の教えを広めることで民衆の心を安定させるため、優れた徳を持つ女子が大陸から招かれて王となった。
 3. それまでの世襲制を廃止し、中国の皇帝による直接的な任命によって、最も外交能力の高い女子を王とした。
 4. 大規模な干ばつや飢饉が続いたため、農業の神に仕える特別な血筋を持つ女子を王とした。
- 問12 日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山公立入試 類似)
1. 吉野ヶ里遺跡
 2. 登呂遺跡
 3. 三内丸山遺跡
 4. 岩宿遺跡
- 問13 弥生時代に使用された青銅器である「銅鐸」の変化や、当時の社会における役割について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口公立入試 類似)
1. 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。
 2. もともとは実戦で使うための鋭い刃を持つ武器であったが、次第に大型で薄い形状になり、首長の権威を示すための宝物として扱われるようになった。
 3. 死者の霊を守るためや王の権力を誇示するために、古墳の表面に並べられた土製の焼き物として、全国各地の有力な豪族の間で広まった。
 4. 大陸の王朝から日本の王に授けられたもので、金印とともに当時の日本が中国の皇帝に認められていたことを示す外交上の重要な証拠となった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問2	答え 1 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化した。稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問3	答え 2 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐる集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問4	答え 1 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出発点となりました。
問5	答え 1 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問6	答え 1 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問7	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授けられました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問8	答え 1 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問9	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問10	答え 1 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問11	答え 1 もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。	史料には「その国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす」という記述があります。これは、2世紀後半に起こったとされる「倭国大乱」という戦乱状態を収拾するために、呪術的な権威を持つ卑弥呼を王に立てることで、諸国の連合体としての安定を図ったことを示しています。
問12	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代に現在の佐賀県に築かれた、大規模な環濠集落（かんごうしゅうらく）の跡です。物見やぐらや二重の濠、大規模な墳丘墓などが発見されており、クニの成立過程や大陸との交流を研究する上で極めて重要な遺跡です。静岡県県の登呂遺跡や青森県の三内丸山遺跡とは所在地や時代、特徴が異なります。
問13	答え 1 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。	銅鐸は、古い段階のものは小型で、中に「舌」と呼ばれる棒を吊るして振り、音を鳴らして使われていた痕跡があります。しかし、時代が下るにつれて急激に大型化し、表面にシカやカマキリ、高床倉庫などの精巧な絵画が描かれるようになるなど、音を鳴らす道具から、儀式の際に見せるための祭祀具へと役割が変化していきました。武器から祭祀具に変化したのは銅剣や銅矛の説明であり、土製の焼き物は埴輪、中国皇帝からの授与品は金印や一部の銅鏡（卑弥呼の鏡など）を指します。